



平成 21 年 6 月 15 日

卓話 『東京オリンピック・パラリンピック招致  
「アーティストの草の根活動による支持率倍増」』  
Contemporary Japan 代表  
前田 智之 様

今日お話しさせていただくのは東京オリンピックに関してです。私が共感を覚えたのが「日本人が心を一つにして日本を結び世界を結ぶ」というコンセプトです。六本木エリアは日本で最も国際的で、私もここで生まれ育った経験を生かして発信することで東京オリンピックを実現できたらと考えました。

私は17歳のときアメリカに行って、ある証券会社でインターンシップを経験させていただいたんですけども、そのときの上司がオリンピックの体操選手で、その人のもとでも精神的に勉強させていただきました。それから約10年たって、今、その思いが蘇って来たんです。我々の住んでいるエリアで毎年夏、麻布十番祭りという3日間で約50万人を呼び込むお祭りがあります。国際的という視点から見ると日本では最も大きいお祭りです。港区の産業振興会から私の住む地元商店街にお祭りを通じてオリンピックを盛り上げてほしいというお話がありました。その当時母が会長をしていましたが私も周囲の友達に相談しました。そこでオリンピックが盛り上がるように考えたのが、毎年、お祭りで売っている生ビールの巨大なものを作ることです。これが私が招致活動をするきっかけです。

街ゆく人々にインタビューするとほとんどの人がオリンピックに来てほしいと言いますが、ショックだったのは、東京は素晴らしいプランを持っていて候補地としては1位だけれども、残念ながら国民の支持率が最下位だということです。これに対して何かできないかとオリ

ンピック招致委員会に相談に行きました。そこであまり興味をもっていない若い人たちに向けてオリンピックを盛り上げることになりました。アート、建築、音楽を通じて賛同者を増やし、ニューヨークに沢山の日本人アーティストが住んでいるというアイデアから、ニューヨークから逆に情報を発信しようということで彼らに支援を求め、在ニューヨークの日本人中心にコンサートを行いました。そのときに立ち上がったのが本日も一緒に出席しているユニコです。

私たちのアイデアの1つがオリンピックとともに沢山の文化プログラムを行って、より文化や芸術が社会に溶け込む機会を作ろうということです。世界中の赤ちゃんの写真、赤ちゃんの笑顔を通じて世界を1つに結ぼうというプロジェクト。東京インビテーションというファッションショーでは、東京ガールズコレクションという若い女性に人気のファッションデザインをオリンピックにインスピレーションを受けて作り、若者の共感を得ようというプロジェクトも動いています。また麻布十番祭りの中で日本ならではの技術、LEDライトを使って綾とりと組み合わせた面白いデザインを作ることも検討しています。オリンピックが来たら、たくさんの素晴らしい経験や新しい夢を実現できる機会になると思っています。

